

広報すずらん

2013(平成25年)

7月発行
第48号

発行日：平成25年7月1日（1995年創刊）
発行元：社会福祉法人すずらんの会 理事長 大長義信
〒252-0328 神奈川県相模原市南区麻溝台7-1-7 TEL: 042-749-8881
編集：広報委員会 ホームページURL: <http://www.suzuran.or.jp>

<目次>

- ・新連載！（表面）給食室からこんにちは～身近な栄養学～栄養士、岩淵職員による栄養コラムが始まります。栄養学と言うと固く考えがちですが、私たちの生活に切っても切れない関係である食事や食物のことに分りやすく解説して行きます。
- ・特集記事（中面）一般社会と福祉社会の温度差はまだ大きく、今回は身近な環境から取材した結果を掲載しました。
- ・平成24年度決算報告（裏面）
- ・苦情解決委員会活動報告（裏面）

★お知らせ

今年もサロンコンサートを開催します！

7月20日（土）14:00 開演

会場：相模原市民健康文化センター

みなさまのご来場をお待ちしております。



給食室からこんにちは

～身近な栄養学～

野菜を十分に摂ることで、疾病を予防しましょう。

栄養士 岩淵 智子

野菜には、ビタミン、ミネラル、食物繊維など、体の調子を整え機能を正常に維持する大切な栄養素が含まれています。さらに、野菜は免疫力の向上や抗酸化作用などの機能性により、脳卒中、高血圧、がんを予防する効果が高いといわれています。最近の研究では、野菜を総量として十分に摂取している人は疾病リスクが低く、健康状態が良好であることが明らかになっており、野菜の多様な成分が相互に作用し、健康な体づくりに影響していると考えられます。

◎成人が1日に摂りたい、望ましい野菜の量は、350gです。野菜70g相当の量を1皿分と考え、朝2皿、昼1皿、夜2皿などに分けて食べ、1日3回の食事で合計5皿分、350gにすると分かりやすくなります。

すずらんの会では、毎日の昼食1回(給食)で大皿の付け合せと小鉢1種類、合計2皿分の野菜を提供しています。



1皿分の目安 *食器はあくまでも一例です。

◆ほうれんそうのおひたし (80g)



◆かぼちゃの煮物 (75g)



70g×5=350g (5皿分)

◆野菜サラダ (75g)



◆具だくさんのみそ汁 (75g)



野菜を多く使った料理は2皿分と数えます。

◆冷やしトマト (75g)



◆野菜炒め



(野菜のみ調理前180g/調理後125g)

就労支援のすすめ

理事長 大長 義信

4月から私達の運営する多くの事業を統括する法として、障害者総合支援法が施行されました。障害者自立支援法から代わった法律ですが、利用者や私達事業者にとっては今すぐに今迄と大きく変わる所はなくスタートしていますが、実は旧法である自立支援法に異を唱えた人達にとっては、名前が変わっただけではないかと、実質的に中味が変わらない事自体が未だに許しがたいことになっているようです。私達法人にとって旧法は、障害者の就労支援を前面に出してくれましたのでありがたかったのですが、新法では少し陰をひそめた所があり、障害者雇用率が2%に上がったこともあって物足りない感は否めません。いつの時代にあっても、万人が満足する制度にはなかなかならないものですから、法人の柱である就労支援は従来通り或いはそれ以上の成果を得られるよう傘下の事業所の尻を叩いていこうと思っています。

私達の就労支援には二つの意味があり、ひとつは文字通り障害のある人達の企業などへの一般就労を応援する意味と、すぐには一般就労が難しい人達に施設内等で仕事に就いて貰って就労に向けた訓練を受ける意味とがあります。いずれの場合も働いた分は収入が得られるのですが、企業側の協力を得ない限り始まりません。多くの地域の有力企業から理解が得られ、就労の門戸を開いて頂いていますが、更なるステップアップも求められているのが実情です。法人では様々な理由から昨年度の就労者数を前年度比で減らしてしまう結果になってしまいました。新規就労先の開拓にも力を入れて挽回を図らなければならないと感じています。



シリーズ特集①

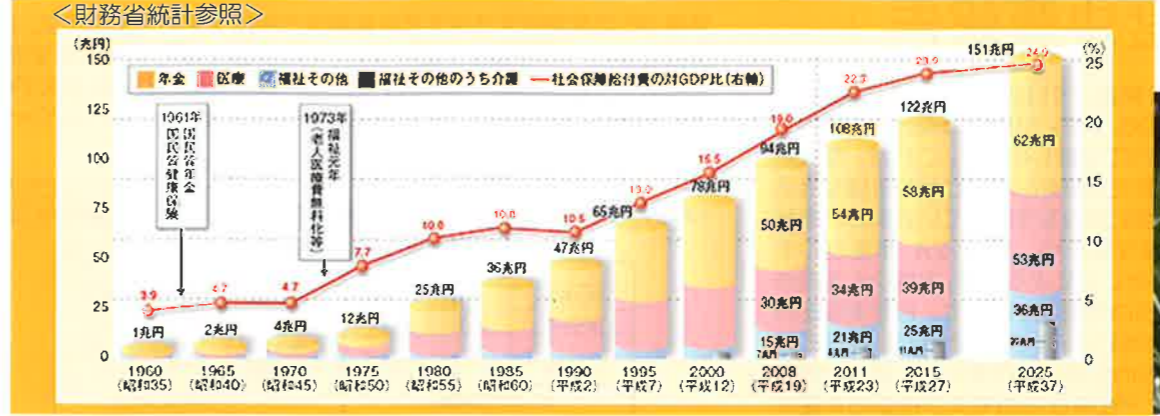
社会と福祉の間には...

今年度の特集は、地域社会の一員として福祉施設の在り方が大いに問われており、一般社会と福祉社会にある垣根を如何にすればなくすることができるかを考えていきます。



「徳島県上勝町」という町をごぞんじだろうか。徳島市内から車で約1時間、人口2,000名を下回り、高齢者の比率が49%という限界市町村(※注1)に近い厳しい環境の場所である。町が全国的に知られる様になったのは「葉っぱビジネス」。高齢者の仕事と言うと、都会では建物清掃・スーパーのカート回収・駐車場管理等、地方では内職・畑仕事・子守り等が思い起こされるが、上勝町では地元の資源を使って高齢者を活性化しようと言う発想から、オーバーちゃんビジネスとして料理の「妻物」として使われる季節の葉や花、山菜桜等を全国販売に仕立て上げたビジネスである。高齢者福祉では在宅介護事業所等の利用が等、選択肢が狭められるがこの事業の成功によって町の活性化が生まれ、ひいては福祉予算の削減効果も生まれた。上勝町のHPで平成23年度財務諸表をみても、健全運営で極めてわかりやすく記載されており、正に行政と町民が一体になって歩んでいる。一方、日本の社会保障費用は右のグラフが示す様に年々膨大なものになっており、1960年代には失業対策や生活保護等が中心であったが、時代と共に医療保険や年金制度等の社会保険や老人福祉を中心とする社会福祉、介護等に重点が置かれてきた。

(※注1)：限界市町村又は集落とは、人口の50%以上が高齢者(65歳以上)になっている地域の事です。



そこで、一般社会からみた福祉はどの様なものか、今回職員の知人を中心に地域の方々80名程度を対象として、一般的な観点から福祉について聞いてみたところ、下記のように様々な意見があった。福祉と言うと、最も多くイメージされることは高齢者関連の事で、私たちの運営している障害者支援に関しては、まだまだ認知度が低く、「共に助け合う」「意識が高い」等、好意的な意見がある一方、「福祉の重要性はわかるが具体的なことは良く知らないし、分からない」、「老人などの介護は知っているが障害者の事はわからない」といった回答が多かった。中には「福祉制度に頼らず自助努力が必要である」、「障害者に対し、どのような対応をして良いかわからない」、

「公園等で障害者が近くにいた場合は、子どもを連れて行く時は、少し避ける」等、考えさせられる意見もあった。この様な中で、福祉事業を展開する側が社会(地域)から求められる事やなすべき事は、日本の再生政策の中でクールジャパンを積極的に推進している様に、「当たり前になってしまって、誰も気づかない」素晴らしい点を見つけるという発想の転換と着眼点をもった多角的視点から、上勝町の様な仕掛けや在り方をヒントに多様なアピールをする事で社会が注目する様に、福祉事業者も更なる自助努力で社会的理解度を深める努力が必要と思われる。



福祉に対するイメージはどのようなものですか。

- ①高齢者介護 ②福利厚生 ③給料が安い/きつい/汚いイメージ ④ボランティアのイメージ ⑤気を使う、どのように接したら良いかわからない ⑥困っている人 ⑦グレーな感じ ⑧弱い人を助けるための施設など、多くは身体的精神的障害を負った時や歳をとった時にお世話になるところというイメージ ⑨知らない人にとってはとっつきにくいイメージ ⑩手助けをするというイメージ ⑪辛くて大変、足りない ⑫介護とか劣悪環境な労働といった施設のイメージ ⑬偉いと思う ⑭家庭的なイメージ(エプロンなどを連想) ⑮高齢者入所施設とかは一度入ると出られないイメージがあります ⑯身体の不自由な人や高齢者の為のもの

20歳代
30歳代
の男女

近くにある福祉施設をご存じですか。

- ①わからない ②知らない ③名前は知っていますが、どんな施設なのか詳しく分かりません ④知っている(老人福祉施設) ⑤家の前に行政の施設がある

障害者施設をご存じですか。

- ①リハビリ施設がある ②知らない ③入所施設がある ④身体、知的、精神の障害者施設を知っている ⑤送迎バス等で養護学校の名前を見かける程度

障害のある方と接した(会話等)事がありますか。

- ①学生時代は学校で会う事はあったが、社会人になってからはない ②電車の中で見かけた事がある、独り言を言っていて、少し怖かった ③昔あった ④実習で障害者施設に行った ⑤接したことはないと思う ⑥家に呼んでバーベキュー等しています ⑦ある(学校、アルバイト先) ⑧町で話しかけられて会話を交わした

- ①たすけあい ②福祉イコール幸せと聞いた事があるが、ピンとこない ③関係者以外は立ち入れられない雰囲気 ④社会にとけこもうとしている人も多いが壁がある ⑤高齢者を介護するイメージ ⑥暗いイメージ ⑦まだ普通に働いている自分にとって実感が湧かない世界です ⑧従事している人が、えらいなぁと思う ⑨人助けを行うもの ⑩高齢者 ⑪大事なことだが、色々ありすぎて分からない。テレビに乙武さんが出るようになって、イメージが変わった。 ⑫社会的に必要なしくみだと思ふ ⑬縁の下の力持ちみたいな、支えてくれているイメージ ⑭皆が協力しなくては、なりたないものではないかと思ふ ⑮難しい、わかりづらい ⑯奉仕活動が強い ⑰給料が安く、働く人は良くやっている ⑱暗いイメージ(障害のある方が、この先どうなってしまうか考えると暗いイメージになってしまう) ⑲大事に考えなければならぬもの

40歳代
50歳代
の男女

- ①職業柄(タクシー)、よく送迎する ②自宅のそばに作業所があるのを知っている ③近所に障害者が仕事の訓練のようなことを行っている場所があることは知っているが、入ったことは知らない ④通っていた小学校の隣に養護学校があった ⑤知っている ⑥知らない(福祉施設のバスは良く見かけるが施設の場所は知らない) ⑦近隣のパン屋さんは、障害者施設関係が運営していると聞いたことがある

- ①業務上(タクシー)、よく送迎する ②自宅のそばに作業所があるのを知っている ③通所・入所施設がある事は知っている ④以前、障害者グループホームの建設に関する新聞記事を読んだ ⑤通っていた小学校が養護学校の隣だった ⑥知っている。

- ①タクシーに乗って、駅付近で見かけることが多いが、奇声を上げるなど突拍子のないことをするイメージがある ②店に車イスのお客様が来た ③公園等で見かけるが、自分の子どもがいると避けるようにしている ④素直で純粋と思う ⑤教会で障害のある子どもたちとその家族との交流会を行っている ⑥スーパーで目の不自由な人に声をかけられ、どうしたら良いのか分からなかった。店員とは顔なじみのようだった ⑦同じ職場に聴覚障害の人が2人いる ⑧身体障害者は知っているが知的障害は知らない ⑨ない(コミュニケーションの取り方が良く分からない) ⑩ない(むやみに近づいてはいけないと考えている) ⑪職場に身体障害・知的障害がある人が働いている

- ①自己犠牲 ②特に深く考えた事はない ③弱者の支援 ④働く人たちの志が高い ⑤障害者に対して一生懸命なイメージ、良く頑張っているイメージがある ⑥ボランティア ⑦助け合う ⑧あまり身近に感じない ⑨マイナーなイメージ ⑩老人介護 ⑪あの町の方が良いサービスを受けられるなど、地域によってサービスに偏りがある

60歳以上
の男女

- ①職業柄(タクシー)、よく送迎する ②仕事柄(バス)、いくつかの施設は知っている ③わからない ④民家を改築してデイサービスを行っている施設を知っている ⑤わかりません

- ①仕事柄(バス)、いくつかは知っている ②近くにあるが何をしているかわからない ③知っている、知的障害者のガイドヘルプをしたことがある

- ①タクシーに乗せたが、石を投げられた事がある。何年前よりは良くなったと思う。障害があるから他の健常者より丁寧にしると態度に出る人もいる ②仕事を通じ障害を持った方と少し話をする機会があったが、ある日、突然社内内で抱きつかれた事があり、社内ではセクハラを疑われないが非常に困った事がある ③職場に知的障害の子がいるが、職場の複数の男性にからかわれている様子。かわいそうだと思うが、どうしたらいいかわからない ④ほとんどない ⑤ある(ジャスコの黄色いシートの日に障害を持った方と会話をしました)

福祉や福祉施設に期待することや行ってほしいことはありますか。

- ①無料化 ②地域のコミュニティになって欲しい ③イベントなどで地域交流をして欲しい ④オープンにしてほしい ⑤医療ケアが出来るようになってほしい ⑥種類が多すぎてどんなことをしているかわからないけれど、人と接することが楽しいと思えるような活動をたくさんしてほしい ⑦もっといろんな人にとって身近になると良いと思う ⑧色々な施設同士が交流や情報交換を行うことが出来れば良いと思います ⑨重い状態の人も受け入れてほしい ⑩施設で行うイベントに近所の人が気軽に参加出来るようにしてほしい、施設で働いてみたいと思う人が気軽に見学できるようにしてほしい ⑪待遇を良くして欲しい(給料を上げて欲しい) ⑫いずれ自分が老人福祉施設に入るとしたら、やや閉鎖的な印象なので開放的で地域の人とコミュニケーションがとれる施設になって欲しいと思います。また、特養などの施設数が増えて行って欲しいです ⑬もっと外に出る機会を増やし、子どもたちや若い世代の方たちとコミュニケーションが取れる様にしたら喜ばれるのではないのでしょうか? ⑭高齢者施設をもっと低価格で利用できるようにしてほしい

- ①精神障害の人は誰かがついていての方が良いのではないかと ②特になし ③何が出来るのかが不明なだけに、何を望んだら良いのかもわからない ④色々な人が参加しやすいイベントを開催するなどの活動をして欲しい ⑤障害児童とその家族へのサポートを、もう少し活用できるもの・効果的なものにして貰いたい ⑥小さい頃から接する機会があると良かったと思う ⑦お世話する側、される側ともに、事件や事故がないような仕組みを望む ⑧健常者は障害者がどんなに大変かなんてわからないです。だから障害者が少しでも社会と関わって人間らしく生きていくためには、福祉や福祉施設が絶対必要だと思います。1人でも多くの障害のある人が、毎日充実して生活するために頑張ってもらいたい。 ⑨情報発信してほしい(オープンにしてほしい) ⑩特になし ⑪フリーダイヤルの案内窓口や相談窓口、事例に基づく利用案内などを行ってほしい ⑫社会的弱者の為に頑張って ⑬祭りなどの地域行事にどんどん参加して欲しい ⑭介護職の育成と職員の賃金を改善してほしい

- ①わからない ②障害者だけでなく弱者(老人・東北地方の人々)の方も力を入れて欲しい ③障害者に出来る事はもっとあるのではないかと ④制度に頼らず自らお金を生みだす取組をしてほしい ⑤高齢者の事に力を入れて欲しい ⑥特になし ⑦考えたことがない ⑧地域掃除など ⑨今後の日本を支える大切な分野です ⑩単身高齢者の地域交流の機会を促進してほしい

平成24年度決算報告

平成24年度は、事業収支計算表上では収入総額95,708万円(前年度比:106%)、支出総額96,745万円(前年度比:111%)で、当期収支差額を-1,037万円で決算しました。これは、事業活動としては4,963万円の当期収支差額を出すことができ健全な活動ができましたが、平成26年度に開設を予定している新しい事業所を建設するための資金を準備するため、平成24年度として6,000万円を積立金支出計上したことによります。平成24年度の事業所収入は、就労支援系事業所の利用率が好調で、自立支援給付費収入等が66,927万円(前年度比114%)となり、予算に対しては102%とほぼ計画どおりの結果になりました。また、授産収入は主にスリーエムヘルスケア社様からのマスク作業の大量受注が法人全体の収入増につながり10,321万円(前年度比117%)の収入となりました。また、支出については、各事業所とも計画を意識しつつ恒常的に経費節減に取り組んできた結果、事業活動としては100%の結果となっています。授産作業においては、目標工賃についても支払総額で100%を達成することができました。平成25年度は、職員の待遇改善を実施した初年度になります。前年度の決算状況等から概ね事業運営に支障は生じないと思われませんが、特に今年度は計画に準じた事業展開をしていく必要があります。なお、待遇改善はサービス品質の向上を目的に実施したものであり、支援活動にあたっては利用者の人権を尊重しつつサービス品質の維持向上に努めていって欲しいと思います。併せて、今年度からは

平成26年度開設を予定する新事業所の建設工事が始まります。建設資金は法人の積立金と金融機関からの融資により調達しますが、それに伴う財務活動も活発化するため、事業収支とともに月次での管理を徹底していくことにします。※決算状況は法人ホームページにも掲載しています。

社会福祉法人すずらの会 平成24年度 決算報告

自 平成24年4月1日
至 平成25年3月31日

資産の部		負債の部	
基本財産	621,286	流動負債	76,609
運用財産	616,520	固定負債	59,400
		引当金	38,142
資産合計	1,237,806	負債合計	174,151
差し引き正味資産		1,063,655	

借方	貸方
流動資産	279,542
固定資産	958,264
	(負債合計) 174,151
	基本金 312,267
	積立金 437,677
	運用財産基金 0
	繰越金 313,711
	(純資産計) 1,063,655
資産合計	1,237,806
	負債・純資産計 1,237,806

借方	貸方
特別支出事業(障害)支出	99,962
人件費支出	565,362
事務費支出	161,740
事業支出	35,859
減価償却費	20,946
運送料等引当金繰入	5,108
繰入金支出	10,800
借入金利息支出	762
その他	66,908
	特別支出事業(障害)収入
	特別収入
	補助金収入
	介護保険収入
	寄付金収入
	雑収入
	個人寄附等収入
	借入金利息収入
	利用者負担金
	その他収入
合計	967,447
	繰入金収入
	その他収入
	安否の把握
	収入
当期繰越金	-10,372
	合計
	957,075

平成24年度 苦情解決委員会活動報告

苦情解決責任者 松屋 直人

平成13年に当法人の苦情解決システムが構築され、それ以来部分的な修正を行ってきたものの、10年以上基本的に同じシステムで苦情解決活動を行ってきました。

制定した当時はベストと信じてシステムを構築した訳ですが、マンネリに陥ることの無いよう、昨年度の後半から全面的な見直し作業をスタートさせ、今年度中に結論を出す目標で、検討作業を継続しております。

利用者の皆さん等からの要望等は、事業所におけるサービスの質の向上にとって、非常に貴重であり有用なものです。今後も丁寧に対応していきたいと考えておりますので、皆様からも、我々のサービスを向上させるという視点から、忌憚の無いご意見やご要望をお寄せいただけますようお願い申し上げます。当委員会では、事業所へ寄せられた要望等及び投書(みんなの声)に対して、どの様な対応を行ったのかを、事業所から報告を受け、第三者委員さんを交えた



月毎の定例会で、対応内容を吟味し、その対応が不適切であった場合には、事業所へ状況確認を行うとともに、必要な場合には追加の対応を指示するという活動を行っています。また、委員会の議事録は、法人内に周知し、情報の共有化を図っています。昨年度は、ここ数年低調だった利用者の皆さんからの投書(みんなの声)が少し増加しました。なお、最近3年間の苦情等の件数は下記(表1)の通りでした。また、平成24年度の苦情等の内容は、下記(表2)の通りでした。

(表1) 苦情等の件数の推移

年 度	苦情ルーム要望	みんなの声	合 計
平成22年度	25	5	30
平成23年度	22	7	29
平成24年度	20	17	37

(表2)

苦情等の内容	件 数
職員の接遇に関するもの	5
説明・情報提供に関するもの	7
被害・損害に関するもの	1
サービスの質や量に関するもの	21
利用料に関するもの	0
権利侵害に関するもの	0
その他	3
合 計	37

4名の正職員を採用しました (平成25年度)

- *ワークショップ・フレンド 大石 康平(4月採用)
- *グリーンハウス 池田 雅樹(4月採用)
- *グリーンハウス 大辻 立樹(6月採用)
- *大和市障害者自立支援センター 大原 紗子(4月採用)

【編集後記】

今回の特集では、障害福祉に対する一般の方の関心はどの様なものかを知る為に、広報委員全員で飛び込み取材やお宅訪問、電話取材等の広範囲な活動をしました。多忙や障害福祉の認知度の差などの理由により、十分な回答を得られませんでした。今後の障害者支援活動を行うには大いに参考になりました。委員会でも社会福祉の在り方について闊達な議論がなされ、早くも次号の発行に向けての問題意識が高まっています。